

## 研究課題：総合的な学習の時間における防災学習に関する研究

本研究の主な成果を次の3点にまとめる

### 研究1) 総合的な学習の時間の授業での防災学習の先行研究の理論的(文献)研究大学

総合的な学習の時間の授業での防災学習の先行研究は幾多あるが、総合的な学習の時間の授業での防災学習におけるアクティブラーニング、クロスカリキュラム、地域に開かれた学校の視点からの体系的具体的な内容・方法・形態等については、十分な研究が行われていない。城下英行・河田恵昭「学習指導要領の変遷過程に見る防災教育展開の課題」(自然災害科学、2007)では戦前の国定教科書で使われた「稲むらの火」といった国語科での取り組みから戦後は社会科で大きく扱われ、やがて理科に防災に関する内容が登場した、とある。その後、総合的な学習の時間が導入され、防災学習が取り上げられるのではと思われたが、実際に総合的な学習の時間における防災学習が実施された割合は半数近くとどまっている。2017年までは防災教育を教科にとりこむ動きも有ったが、現場の状況から困難であり、立ち消えになった。特別活動としての避難訓練は地域との関わりも含めて拡充してきているが、総合的な学習の時間における防災学習においては地域との協働は不十分でありこれからの拡充が必要である。

特色ある総合的な学習の時間の授業での活用内容として、熊本市防災学習の手引き 2022/小学生低中高と中学生にわけて作成され、以下は高学年の例であるが、

1. 熊本地震について 2. 熊本地震の被害の様子 3. 熊本地震の被害は? 4. 災害が起きた時の行動・防災 4. 地域避難所 5. 熊本地震を伝えた新聞(情報) 5. 自然災害とその歴史 6. 熊本市の災害年表 7. 地震のメカニズムを知ろう 8. その他の自然災害 9. 未来へのかけ橋 10. 熊本市のまちづくり (1)(2) 11. 災害から私たちを守る政治 12. 避難所生活や学校へ行けないこと等のストレスの実態と対処法 13. 自然災害によるけがの防止 14. 自分でできるけがの手当ての方法 15. もしも地震が起きたら、といったように内容は精選されてきている。

また、福岡市での調査では「中学生による中学生のための防災ノート」2017の文献によると、

1. 危険を予測しよう 地震・風水害 2. 情報を収集しよう 3. 中学生にできること

内容の1つとして、平成17年福岡県西方沖地震では、という項目で「福岡市西区の玄界島では『自分たちの地域(島)は自分たちで守る』という意識のもと、中学生で結成された『少年少女消防クラブ』が島民の避難誘導や防災キャンプなど、日ごろから様々な訓練を行っています。西方沖地震で被災を経験した玄界島では、毎年、全島避難訓練も行われており、その中で中学生が、車いすに乗った高齢者をリヤカーのように引いて高台に避難するといった訓練も行っています」とあり、

また、熊本地震ではという項目で「熊本県南阿蘇村の避難所では、被災者でもある中高生のボランティアが、救援物資の運び入れや駐車場の整理、簡易トイレの設置、避難者の受付、食事の配膳など、避難所運営の中心となって活躍しました」と例示されており、具体的授業活用が期待される。

4. 備えよう 5. 私の防災メモ

このように新しい防災教育では児童生徒にもボランティアひいてはまちづくりにまでかかわっていくことが示されてきており、アクティブラーニングや地域に開かれるという内容である。

### 研究2) 防災センター及びNPOの事例研究

目黒区防災センター等の各地の防災センターセンターでは系統性を踏まえた上で津波体験、体験者からの直接の聞き取り体験、VRの導入など本格的な体験施設や印象的な映像活用も可能とさせられている。機関鏡胴により総合的な学習の時間におけるアクティブラーニングをすずに取り入れた防災学習に取り組んでおり、玄界小中学校においては福岡市消防署・防災センター・日本赤十字など学校以外の機関等との連携・協働を有効に行っていることが明確となった。

### 研究3) 大学における総合的な学習の時間での防災学習に関する学生の意識調査・授業実践分析

研究代表者の「総合的な学習の時間・特別活動の指導」(47名)の授業において総合的な学習の時間での防災学習のあり方の講義・演習・実習を行うとともに、総合的な学習の時間での防災学習の指導案作成の授業を展開する中で、学生の意識と行動の変容を検証、考察した。これまでの総合的な学習の時間における防災学習が実践面で十分とは言えず、アクティブラーニング等の導入に加え、メディアの有効活用の必要性を意識していることがわかった。指導案作成ではアクティブラーニング等の導入を図ったが、指導案作成の力量はある程度は向上するが、クロスカリキュラムと地域との協働に対してはクロスするための基礎知識と協働のためのコーディネート基礎力が不足していることが明確となった。その結果から、今後の総合的な学習の時間における防災学習の充実と学生自身が総合的な学習の時間での防災学習のよりよい指導案作成ができるための鍵となる内容への示唆を得ることができた。

結果、今後求められる視点と総合的な学習の時間における防災学習の充実のための必要内容として以下の4点を明らかにした。1. 時代・社会変化や発達段階に応じた系統化 2. 地域や多様な機関等との連携・協働・融合 3. 子どもの参画と社会参加・社会貢献 4. 教師の力量形成\*自信、地域や学校の課題の析出

今後、さらにこの研究を継続・発展して検討を加え、研究成果をより具体的・現実的に有効なものとしていくことが必要である。